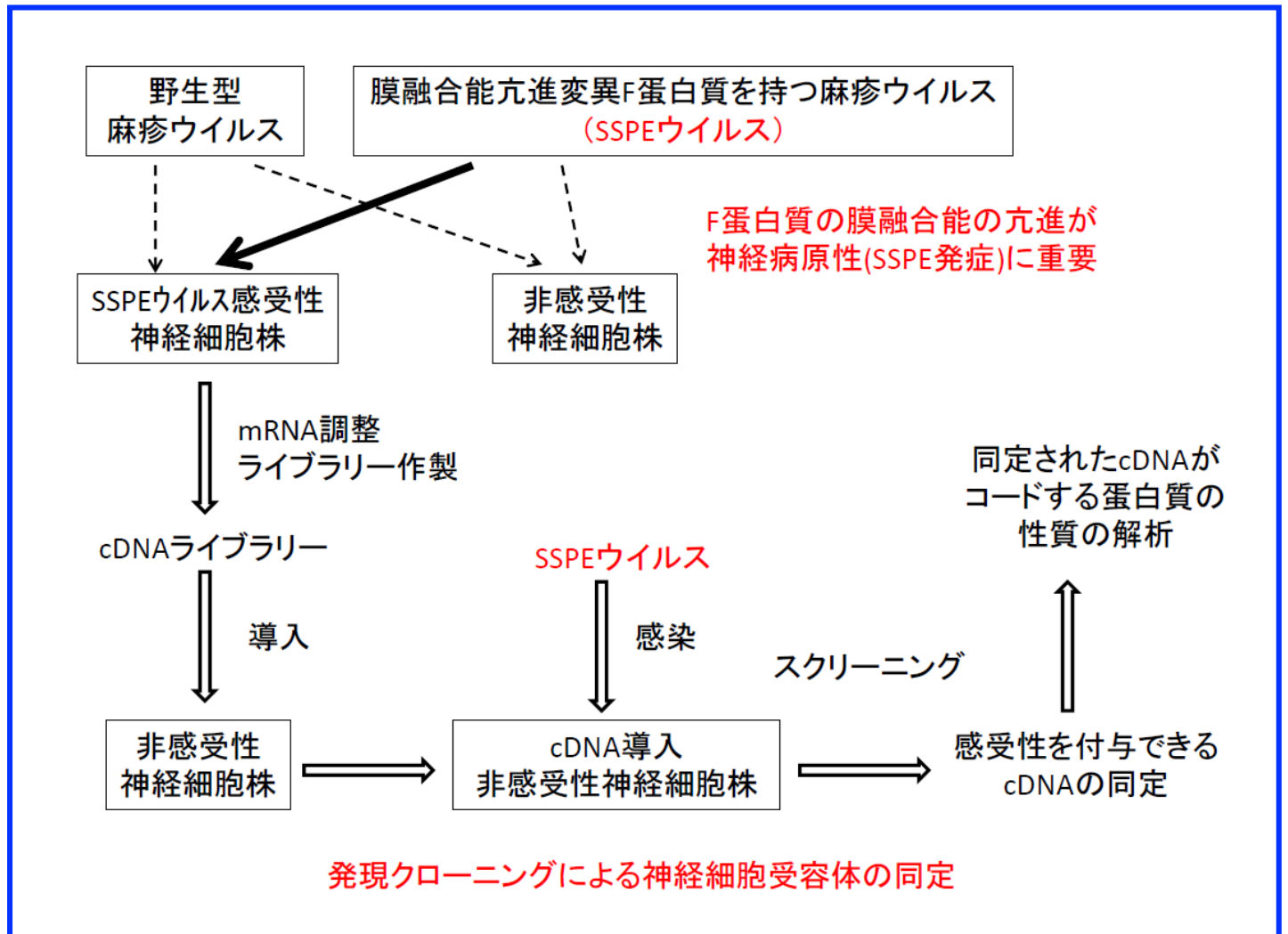


麻疹ウイルスの神経細胞感染機構の解明とそれに基づく治療法開発

研究開発分担者：九州大学大学院医学研究院ウイルス学分野 柳 雄介



解説

1. F蛋白質の変異により麻疹ウイルスの膜融合能が亢進することが、SLAMやnectin 4のような既知の受容体を発現していない神経細胞にウイルスが感染・伝播してSSPEを発症させるために重要である。
2. そのような膜融合能が亢進したウイルスも感染できない神経細胞株にcDNAライブラリーを導入し、スクリーニングを行うことにより(発現クローニング)、神経細胞上のウイルス受容体の同定を進めている。